

C-4

Pz 536

電子複写不可



昭和二十四 一七、五

人口人口憲兵派遣隊業務書類綴

1/2



國籍	比律賓	被告	ゴルベルト・メッセス・バハルト印刷所紙切斷工
出生地	「ボホル州」オハエ村以下不詳	被告	ゴルベルト・メッセス・バハルト印刷所紙切斷工
住所	「ダラウ」市「カワマン」リントニ	被告	ゴルベルト・メッセス・バハルト印刷所紙切斷工
別工	バハルト印刷所紙切斷工	被告	ゴルベルト・メッセス・バハルト印刷所紙切斷工
別工	ゴルベルト・メッセス	被告	ゴルベルト・メッセス・バハルト印刷所紙切斷工

被告「ゴルベルト・メッセス・バハルト印刷所紙切斷工」は本年四月二十八日于市中「経営主」バハルトノ指示ヨリ「前記」抗日宣伝「ビラ」用紙三十枚ヲ裁斷シ尚印刷終了後該宣伝「ビラ」數枚ヲ採取リ自宅ニ貯藏リ自宅ニ於テ伯父「初見」以テ帝國軍ニ對シテ叛行爲ヲナシタリ

以上十一名



一野憲高第一六〇號

抗日傳單撒布ニ関スル件報告

「通牒」

昭和七年五月十九日 第一野戰憲兵隊長大田清一

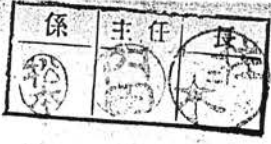
第十四軍司令官本間雅晴殿

首題ノ件左記報告「通牒」ス

左記

一發見日時場所並發見者

日時——五月十八日七時三十分頃（別紙其一）



参考

1.23

1916

五月十八日二十時頃 (別紙其二)

場所 || 議事堂前市民運動場芝生の上

(其二ハ其一ヨリ約一五米離レル場所)

發見者 || 別紙其一ハ「マニラ」ホリス警察大尉ロクト

カ警戒配置ニ就カシムヘク部下警察官

ヲ引率シテ式場ニ赴ク途中發見ス

別紙其二ハ別紙其一ノ實況見分ニ赴

キタル憲兵カ之ヲ發見ス

傳單、
枚數 || 其一ハ二枚同一場所ニ其二ハ一枚ノ發

見ス

二傳單内容

別紙其一、其二、如ク何レモ表面ニ反日記事

ヲ「ツイフト」以テ印刷シ裏面ニ「惡質ナル諷刺

漫画ヲ掲載シアリ

三反響

現在迄、調査ニ依リ他ノ場所ニ撒布セラレタル

形跡ナク且發見早カリシ爲反響トシテ認ム

ヘキ事象ナシ

四憲兵ノ處置並所見

本件ハ「コレヒドール」陥落ニ依リ比島人、対米
依存心カ急^速冷却セントスルニ狼狽焦慮セル
抗日分子ノ苦肉ノ策ト思ハル、モ策動漸次悪
質化、傾向ニ鑑ミ急速檢舉、必要ヲ認メ
目下銳意捜査中ナリ

(了)

發送先

軍司令官

軍政部長、防衛司令官

寫隊下乙

別紙其一

譯文 (原文)

私ハ「リングガエン」灣「アテモナン」「バタン」及「コレヒ
ドール」ニ於テ戦ツテ來タモノデアリマス

私ハ勝利ノ爲ニ戦ツタ事カ悪イ結果トナ
リマシタ、ソレテ不幸ニモ最後ノ敗戦ヲ嘗
メタ私ハドクナニ感スルデセウ 私ハ「マニラ」ニ

著ク時ニハ殆ント足ヲ曳摺ツテ參リマシタ

「マニラ」ヨ！吾カ市ヨ！之カ私ノ「マニラ」テ

アリマセウカ凡ユル家ノ軒々ニハ旗ヲ掲ケテア



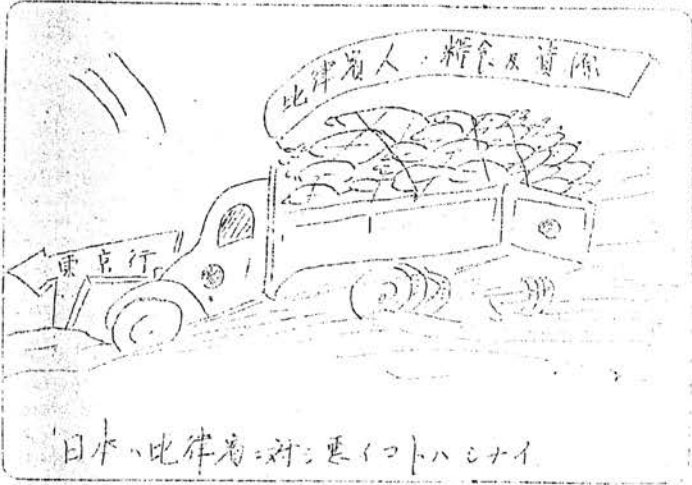
亜細亞、亜細亞



日比親善



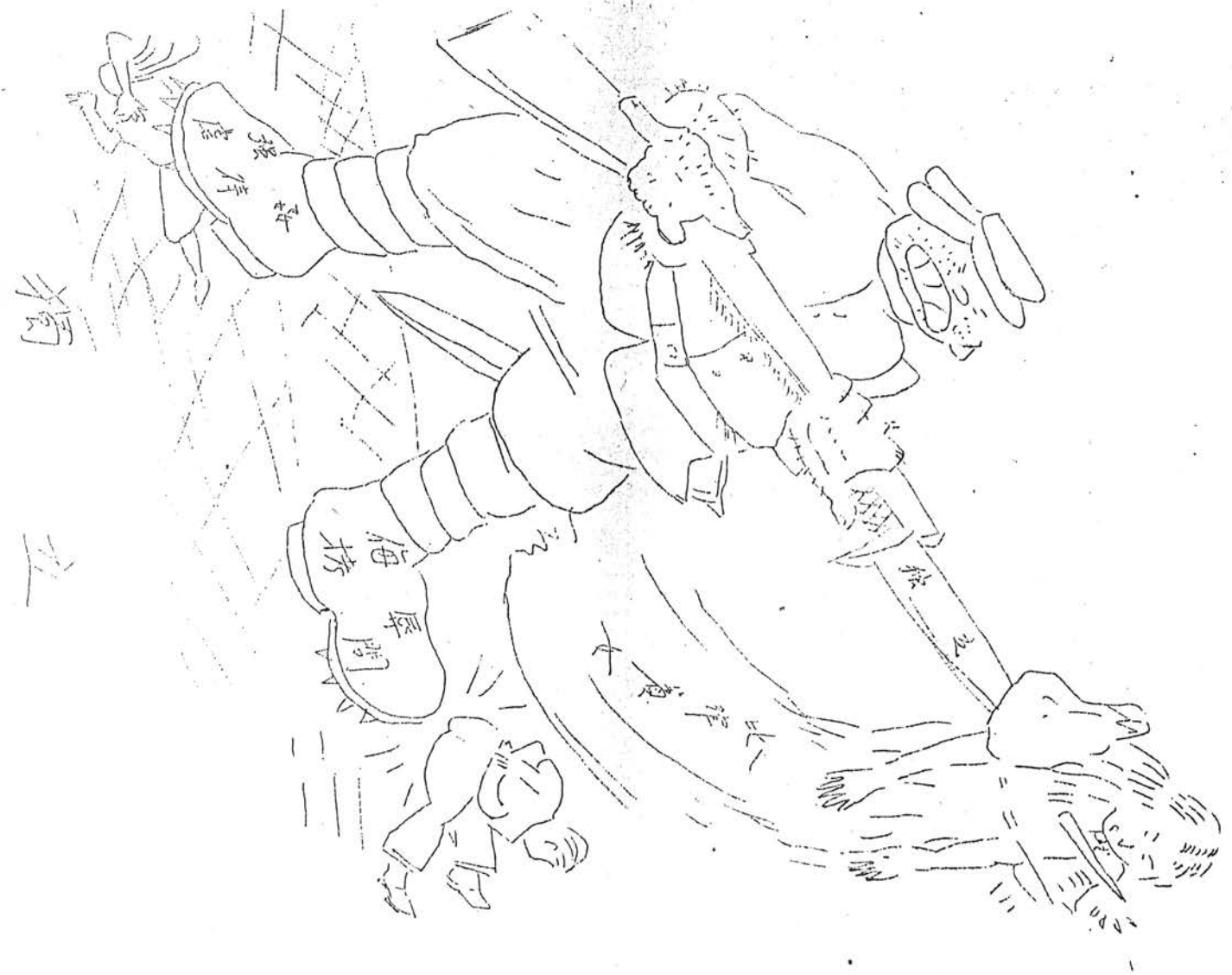
協力



日本、比律省、新、要、コトハシナイ

裏面 (註) 日本語の原文(番号)は、(註)の横線に示す。

裏面 (註) 日本語原文(英語)ノ翻譯也ル人



獨

立